

2025年秋の読書感想文・課題作文優秀作品

【小学部・読書感想文】

「ぼくのジユウな字」を読んで

十日市場校 H.M.さん（十日市場小）

この物語は、主人公の「鷹野龍彦」が学校から帰ってくると、テスト用紙に自分の名前を「タコ」と書いていたことをお母さんに怒られるシーンから始まる。そしてお母さんに紙きれを渡される。そこには、書道教室までの道が書いてある。主人公はショドウコショドウで字を習うことになった。

全部で第4章までである中で私が印象に残った場面は第4章の「苦戦する日々」だ。なぜかという、私も同じ経験をしているからだ。私も1年生の時から書道教室に通っている。毎月課題が出され進級試験があるけれどなかなか進級しない時期もあって悔しい思いを沢山していた。それでも習字の時間はとても楽しく好きなので頑張っている。何事も悔しくて苦戦することは嫌になってしまうけれど続けていくことはとても大切な事だといつも思う。

学校や塾の学習も5年生になって難しくなってきた。それでも「先生の話や宿題をちゃんとやること、わからない所を聞くことは大事だよ。」とよくお母さんに言われる。私もその通りだと最近思うようになった。

この本は、字がきれい汚いではなくて、一字一字ていねいに気持ちを込めて書くこと、相手にもそれが伝わる大切さを教えてくれていてすごく大切なことを伝えてくれている本だと思った。なので、私もこれからは習字のときや友達に書く手紙、清書などの大事なことを書くときは、一字一字気持ちを込めて丁寧に書こうと今日この作文を書きながら決めた。

【中学部・課題作文】

中山校 K.I.さん（東山田中）

私は最近の公民の授業において、一つの中学校の生徒数が昔と比べて5分の1程度にまで減少していることを知った。実際に資料Ⅰを見ると2001年と2023年の間で全国出生数は約44.3万人も減少していることから、日本の少子化が深刻な状況であることを改めて感じた。

さて、全国の男子高・女子高の推移について資料Ⅱから、2002年に比べて2022年は約50%弱減少していることが読み取れる。全国の子どもの数が減っているのだから、学校の数も減ってしまうのは仕方がないだろう。

もし私が埼玉で暮らしていたならば、公立高校共学化の議論に対しては賛成派の意見を取らと思う。なぜなら、まず学校には生徒が必要不可欠であるし、前述のように子どもが減少している現状では学校を運営していくことも難しいと考えたからだ。だが資料Ⅲの共学化反対派の「進学先の選択肢として男女別学校を残してほしい。」という意見も多様性を認める現代ならば大切にすべきだろう。そこで私は2つの案を提案したい。1つ目は共学でも男女を教室やフロアが異なる学校をつくること。2つ目は共学化を進めるとしても男女別学校をいくつか残すことだ。私はこの問題を解決するにはどちらか一方の意見だけ反映させるのではなく、互いが少しでも合意できる方法を考え、歩み寄ることが大切だと考える。

私は、共学の学校へ進学したいと考えている。だが、この問題に触れて分かったことは、男女別学校へ行きたいと考えている人もいるということだ。高校へ進学したら、また新たに進路を考える日が来るだろう。そのときに自分が本当に進みたい道を選ぶように、さまざまな人の意見に触れて、その都度自分なりの答えを出していきたいと思う。

十日市場校 S.Y.さん（十日市場中）

私は少子化について、言葉は知っていたがそれがどれほど現在で発生しているかはしらなかった。資料Ⅰを見ると、2001年から2023年の間で実に45万人も減少している。インターネット等で調べたところこの値は世界的に見てもかなり多い数字であり、また、考えていたよりも多く驚いている。

さて、次に共学化についてだが、2002年から2022年で全国の男女別学の高校数は約半分になっている。また、全国の男女別学の高校の割合は約8%、埼玉県内では約9%でどちらもかなり低い。そのため、男女別学に進学したい学生がいても、必ず行くことができる状況ではないと感じた。

もし私が資料Ⅲの議論に参加していたら、「異性と関わる練習をするのも学校に行く理由の一つだ」という意見を持つだろう。なぜなら、反対派の意見を見て、異性と全く関わらずに学校生活を終えると、社会に出てからも異性との関わり方がわからないままなのではないかと感じたからだ。また、議論に参加していたら他にも「自分では思いつかないような考えができて、自分の考え方が広がる」という意見を持つだろう。私自身、異性から思いつかない考えを教えてもらい、考え方の幅が広がった経験がある。さらに、自分とは立場の違う人のことを考えることは性別だけでなく、年齢や人種が違う人に対して相手の考えを理解して接することにつながると考えた。

私は共学に進学したいと考えている。なぜなら、異性と関わる練習がしたい、自分の考え方を広げたいと考えているからだ。そのために、これからは今以上に相手の考えを聞いて理解するようにしたい。それを達成するために、自分がもしも相手の立場になったときに傷つく言葉ではないかをしっかり考えてから、責任を持って発言するように心がけたい。